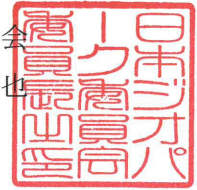


2023年1月27日

南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク協議会
会長 白鳥 孝 様

日本ジオパーク委員会
委員長 中田 節也



第47回日本ジオパーク委員会審査結果通知書

2022年12月16日に行われた第47回日本ジオパーク委員会において、貴地域は再認定となりました。その審議の過程における貴地域に対する委員会からの意見をまとめて、ここに通知します。

【総評】

2020年の条件付き再認定は、地元関係者間で、ジオパーク活動を今後も継続するかどうかについての慎重で踏み込んだ議論をする重要な機会となり、その答えを出すのに一年以上を要した。2022年2月に開催された南アルプスジオパーク協議会総会においては、ジオパーク活動の継続が確認された。その一方で富士見町が協議会からの退会を決定した。

2022年に入って、2020年の多くの指摘事項への対応を検討する過程で、これまで伊那市にある事務局が中心で行っていたジオパークの運営に、飯田市や大鹿村関係者も積極的に加わることや、これまで休眠状態であった3部会の活動をきちんと機能させることの必要性が確認された。全体的には指摘事項への具体的な対応はまだ不十分ではあるが、分杭峠に関する解説板や広報など、一部には改善に着手されたものもある。このように、関係者の十分な議論を経て、改善する方向を自ら定めてきていることは、南アルプス（中央構造線エリア）ジオパークの将来的な展開を約束するものとして前向きに評価したい。

【優れている点】

- ・条件付き再認定後に飯田市議会がジオパーク活動に積極的に取り組むようになった。
- ・重複する南アルプスユネスコエコパークと相乗効果を意識した取り組みが始まっている。
- ・分杭峠の「ゼロ磁場」問題に科学的に決着をつけ、表示や案内方法を改善しようとしている。
- ・ガイドが中央構造線について小道具を使った説明を試みるなど意欲的な取り組みが認められる。
- ・大西山崩壊地形が自然災害跡地公園として保存され、防災教育に活用されている。

【今後の課題・改善すべき点】

I 緊急に着手ないし解決すべき課題（おおむね1年以内）

1. 本ジオパークの地形地質サイトや自然サイトの保全や管理を考慮した場合、環境省の関係者や県の関係者をジオパーク協議会構成員として含めるのが望ましい。また、神社仏閣関係者にも協議会や部会に参加してもらうことを検討してほしい。
2. リニア中央新幹線工事、国交省砂防事業、三遠南信自動車道工事などが大規模に行われているので、それらの施設等を利用したジオパーク活動を積極的に進めてほしい。そのためには、国や県の工事担当部局とのパートナーシップを早急に検討すべきである。
3. パートナーシップ協定の基準作りと同時に、地域のジオパークサポーター制度など、地元住民の声をジオパーク活動に反映する仕組み作りをすすめるべきである。

II できるだけ早く解決すべき課題（2年以内）

4. 前回の指摘事項への対応に不十分さが目立つ。専門職員などの待遇を含む事務局体制やジオパーク活動に十分な財政的基盤を含め、協議会が全体を掌握できる仕組みになるように改善してほしい。
5. 達成目標を明示した基本計画と実行計画の策定を進めてほしい。その中で、ジオパークとしての持続可能な開発に関する取組方針を盛り込むことが必要である。
6. 分杭峠の活用については、科学的に間違った情報が流れないように、継続的な確認作業を行なってほしい。

III 中長期的に解決すべき事項

7. エリア外に主要な事務所があるため、エリアに密着した運営や教育や住民への還元が難しくなっている印象を強く受ける。エリア内と外とで住民の不公平感が出ないように配慮し、事務所をエリアに完全に移すか、伊那市や飯田市の主な居住区を含めた領域に拡大する可能性についても検討してほしい。
8. 他ジオパークなどで協議会の組織運営やガイド養成がどのように行われているかを調査し改善に役立ててほしい。JGNのワーキンググループへの積極的な参加や、本ジオパークの前専門員の協力も得ながら、今以上のネットワークへの貢献を考えてほしい。

以上で指摘した点や現地調査で指摘された点を含め、今後どのように改善するか、人や予算の裏付けとスケジュールを明記したアクションプランの形で、半年以内に日本ジオパーク委員会に報告してください。それらの進捗については、4年後の再審査の際の審査対象とします。

以上